**パンだけで生きるものではない 2016 02 14**

**Luke 4:1-13 Pr. H. Adachi**

主の恵みと福音が人々の心に豊かにそそがれますよう！

復活ルーテル教会では、スープサパーをレント、四旬節の時期に行う。　その意味について、考えられたことがあるだろうか。　なぜ、この時期にスープサパーをするのだろか。

四旬節なので、基本的には、断食とか物忌みとかと呼ばれるが、食事を制限する。　質素なものしか食べない、そういう傾向はあるのだろう。

しかし、スープサパーに出てくるスープやチリは結構豪華なものもあったりする。　私の実家では、基本的には、牛肉は食べなかった。もっとも日本は牛肉が高かったから、経済的な理由もあった。　私は先週の水曜日のスープサパーに出ていたが、牛肉のカレーはあったり、牛ひき肉がたっぶりのチリもあった。

そのようなスープサパーは、神の御心に反するのだろうか？ 結論をいっておくと、たとえ、それが牛肉であろうが、あるいは、刺身が出てきていたとしても、私はそれが神の意志に反するとは思っていない。

ここまで話したところで、今日の御言葉に触れていきたい。　イエスは荒れ野で40日間、悪魔から誘惑を受ける。　この悪魔とは何か？　簡単にいうなら、神の思いから引き離す存在を、人格化したもの。

だから、悪魔がイエスの心を神の思いから引き離すような呼びかけを行った。　それも三回行われたことが、今日の福音書には記述されている。　ひとつめは、空腹感にあるイエスに向かって、「おまえは神なんだがら、石をパンに変えたらどうか？」

それは、イエスが神で、水をぶどう酒に変えることすらできるから、できたのだろう。　いうなれば、イエスにとっては A piece of cake とかお茶の子さいさいということだったかもしれない。

二つ目と三つ目の誘惑にも簡単に触れておくが、二つ目は、神ではない悪魔である私を拝むなら、世界の権力が与えられると呼びかけられた。　三つ目は、高い塔から飛び降りてみろ、神がちゃんと救ってくださるのだから。

二つと三つの誘惑に対しては、それぞれ、旧約聖書の申命記６章の言葉を引用して、他の神を拝んではならない、そして三つ目としては、神を試してならない、とイエスは返答した。

さて、最初の誘惑に戻るが、イエスは、自分の空腹を満たすために、石からパンを作るようなこをはされなかった。　そして、イエスは、申命記８章の言葉を引用して、「人はパンだけで生きるものではない。」　と言われた。

申命記8章には、どんなことが書いてあったかというと、神がエジプトで奴隷状態にあったイスラエルの民を、40年の荒れ野の旅で、空腹や苦難に会うなかでも、ミルクと蜜の地、故郷イスラエルへと導かれた話。　その空腹に対しては、その日に必要なマナを与えた。

神は、イスラエルの40年の荒れ野の旅を通して、人はパンだけで生きるのではなく、主の口から出る御言葉によって生きるかどうかを試されたことが、申命記８章に書いてあった。

さて、ルカ4章に書かれた、イエスが語られた「人はパンだけで生きるのではない。」という話が、現代の私たちに教えてくださっていることは、何だろう。　人によって、「もちろんですよ。私はパンだけでなくご飯も食べます、肉も魚も、野菜も。」と言われる健康お宅の方がいるかもしれない。

いや、もちろん、食べ物は重要だ、人間だから。　しかし、ポイントは、いろいろな栄養のある食べ物だけが重要ということではなく、聖書に記述され伝えられてきた、主の御言葉で、生きるかどうかを私たちは迫られている。

主の御言葉ってなにかというなら、神を愛し、隣人を愛す、それが究極的にもっとも大切な言葉。　その言葉をいつもかみしめて生きる。　自分をとてつもなく愛してくださる神と、同じように、兄弟姉妹隣人を大切にして生きる。　だから食べ物でも自分だけがおいしいバランスのとれた食事をしようとするなら問題が出てくる。

最後に、天国と地獄で、神がとてつもなく長い箸を人々に与えて食べ物を食べさせた光景の話をして終わりたい。　地獄では、それぞれ、自分ひとりで長い箸をつかって食べようとしているが、食べることができない。　しかし、天国では、長い箸をつかって、自分で口に食べ物を運ぶのではなく、他の人に食べさせてあげていた。　とくに四旬節にあたって、ポットラック、食事を分かちあう意味が深まりますように。